

市民マニフェスト川越 2009

市民と行政の協働による共存のまちづくり

2009年1月に予定されている川越市長選挙に対して、市民の手で将来の川越市のためのマニフェストを作りました。このマニフェストは、特定の候補者、政党、あるいは会派を推薦、支持するものではありません。私たち市民が、マニフェストを通じて政策を選択する時代になったとの認識のもとに、市民が率直に議論し話し合い、多くの市民の声を聞いて、将来の川越市を担う候補者に確認すべき事項をまとめました。

市民マニフェストをまとめるに当たっての、基本認識は下記のとおりです。官から民へ、中央から地方へと行政サービスの主役が移行する中で、自治体の力量が厳しく問われています。主体性、自立性、独創性のある自治体となるためには、中核市としての自覚のもと、旧来の体質を変え、意識を変え、経営感覚を持った行政運営を行うことが必要とされます。同時に市民の側も「行政依存体質」から脱却し、行政との協働、市民相互の協働により責務を果たす必要があります。少子・高齢化、人口減少社会の進行の中で、安心して子どもを育てられる環境整備と、高齢者の経験と能力の活用が重要です。個別対応の福祉でなく、システムとしての福祉が必要とされています。

地域コミュニティの崩壊が進みつつある現在、共に支えあい、共に暮らす協働・共存の地域づくりが急務になっています。自助と公助がカバーできない部分を担うのが、地域コミュニティによる共助です。

継続性のある地域発展にとって、地域環境から地球環境まで、環境問題への対応が重要です。総合的な戦略のもと、環境モデル都市として先駆的な取組を進めることが必要です。

地域の特性を生かしたまちづくりが必要です。一番街を中心とする小江戸川越のまちなみ、若い人々が賑わうクレアモール、そして緑と水に恵まれた周辺地区等が計画の対象となります。

この市民のマニフェストは大きな項目を枠組みとして提案し、マニフェスト・マトリクス表に市長選立候補者からお聞きしたい課題を記入してあります。ある意味では「逆マニフェスト」とも言えるものです。

マニフェスト作成を通じて、行政から提供される情報の不十分さと、市民として、日頃から行政に対する関心が充分払われていない状況を痛感しましたが、市民が、自分達の生活に関わる政策の決定過程に参加することはとても重要なことです。

目前にせまった、川越市長選挙に際し、市民として日頃の生活を通じて、川越の将来に必要と思われる事項を提案する、市民からのマニフェスト「逆マニフェスト」を提示し、市長選挙候補者に検討、採択を求めるものであります。

1. 市政運営のための基本姿勢

マニフェストの各項目をひとり行政だけでなく、市民と共にある行政として実施するために必要とされる基本的な姿勢です。

- (1) 開かれた市政、市民参加
 - ・ 政策決定の過程の明確化
 - ・ 情報公開と説明責任
 - ・ 各委員会の公開
 - ・ 政策決定過程への住民の実質的参加

市民参加を進めるためには、市民にとってわかりやすい情報、とりわけ市政の基盤となる財政の詳しい情報が求められます。

- (2) グランド・デザイン、システムづくり
 - ・ 全体計画の明示と其中での位置づけの明確化
 - ・ 個別対応でなく、システムとしての対応

2. 市民マニフェストの項目

- (1) 川越の個性を活かす・伸ばす・創る
 - ・ 文化
 - ・ 歴史
 - ・ まちづくり
 - ・ 観光

川越の歴史とそこで培われてきた職人文化や伝統芸能、自然に人間がはたらきかけ創造した文化的景観、さらにはあたらしい文化芸術の振興に努めるのが課題です。地域のすぐれた「光を觀せる」の観光であり、観光への取り組みは、地域の光を発掘、育成、示すことです。これらを活かし継承しながら、これからの観光まちづくりをどのように進めていくかが課題です。人口33万余人が暮らし、多様な様相をもつ川越は、各地域の特性・課題に応じた、それぞれ独自のまちづくりの指針が求められます。

まちづくり指針においては、協働によるまちづくりを進めるためのシステムの構築と支援の位置づけが重要です。

- (2) 川越の人を活かす・伸ばす・創る
 - ・ 教育
 - ・ 市民活動
 - ・ 子ども
 - ・ 青少年
 - ・ スポーツ

時代を支え、時代を創り出していくのは人であり、また、この人を育むのもまた人です。川越市民、川越で働く人、そして川越の市の職員などを「市の人」としてイメージしております。子どもを育み、青少年が力強く育つために、家庭の教育力、地域の教育力、学校の教育力と相互の連携が問われています。

また、市民一人ひとりが持つエネルギーを、地域力を高める力につなげるための場と組織の充実と、それらへの支援が必要とされます。

(3) 川越の資源を活かす・伸ばす・創る

- ・商業
- ・農業
- ・工業
- ・労働
- ・自然・環境（空気、水、緑、生態系）

商業により発展した川越、豊かな土地を活かした多彩な農業、先進的な技術力を持つ工業、これらの成長は、市民の生活を支え、市の発展の土台となります。

各産業の発展を目指し常に革新を続けると共に、その中核となる若い人達にとって魅力のある活気に満ちた職場づくりが求められています。

観光を商業、農業（グリーンツーリズム）、工業（産業観光）の活性化と結びつけ、経済循環システムを作り上げることも必要です。

一度なくしてしまえば代替のきかない自然を守りつつ、自然と共存する時代に即した暮らしの環境を創るためには、市民総出で知恵を活かし、努力していく必要があります。

(4) 川越の暮らしを活かす・伸ばす・創る

- ・協働・共存
- ・福祉
- ・健康・医療
- ・子ども（子育て環境<地域、家庭>、教育）
- ・高齢者（医療、介護）
- ・障がい者
- ・安全な食糧供給

高齢者、子ども、障がいを持った人、これら総ての人たちの自立を支援し、生き生きと暮らすことができる、継続性のあるシステムを構築すると共に、相互に支えあう協働・共存の、特色ある地域づくりが急務となっています。

健康であることは、何より重要です。健康は作り出すものとの視点から日々の食生活、健康予防としての医療・保健への取り組みが求められます。

(5) 川越のまちを活かす・伸ばす・創る

- ・安全・安心（防犯・防災、救急医療）
- ・生活基盤（道路、上下水、鉄道、ごみ、火葬場等）

地方分権の時代に在って、日々の暮らしを活力あるものにするための生活基盤づくりと暮らしの安全を保障する安全・安心のシステムは、地方自治体の責務であり、地方自治体の力量の問われるところとなっています。

3. 直近の課題

マニフェストの各項目については、そのグランド・デザインを示すと共に、その中で1期目（4年間）にはどの項目を重点的に実施するのかといった優先順位の明確化も重要です。

次の4点は、1期の4年間に着手すべき重要かつ緊急課題です。

各項目について 基本的考え方、 具体的な方策、 財源、 年次計画を明確にして下さい。

(1)都市計画税の減税に関する課題

市税の一つである都市計画税は舟橋功一氏の公約として平成5年から一律に0.1%が減税され、課税標準額に対し0.2%の課税になっています。平成19年度は約13億円、減税開始から平成19年度末までに192億3,000万円が減税されています。これを財源とした新たな市民への施策とあわせ、高額納税者ほど優遇されるこの制度の展望について明らかにする必要があります。

(2)中心市街地計画、交通計画等に関する課題

中心市街地計画としては、コンパクトシティの是非、郊外のショッピングセンターや川越駅西口の位置づけが問題となります。交通計画では、南北方向の車輻交通の処理、一番街の一方通行の可能性、マイカー利用の観光客に対するパークアンドバスライド方式の導入が問われます。一方で、蔵づくりの町並み、旧織物市場や鏡山酒造跡地などの文化財の活用、まちづくり会社の運営、タウンマネジャーの活用が課題です。

(3)高齢者や子どもに関する課題

高齢者が、最も不安を抱いているのは、医療と健康です。安心のある子育てとは、子どもの命が保証されていることです。医療問題を国や県の問題とするのではなく、市が率先して、高齢者が生き生きと健康に暮らし、また親が安心して子育てができるよう、予防的観点からの医療、必要な時に必要な医療が受けられる仕組みが急がれます。健康と医療への取り組みは、障がいを持った人達をはじめ、総ての人に安心のある暮らしを届けます。

(4)市庁舎の更新に関する課題

市庁舎の更新にあたっては、立地地点と新築か増築かの選択が焦点です。立地としては、現在地及びその周辺、川越駅西口、西川越駅付近の新センター地区などが候補地です。川越駅西口に立地する場合は、交通渋滞と駐車場が難問です。

新築か増築か、用地費及び工事費も問題となります。計画段階からの市民参加により、市民の意向の集約、要望の反映を図ることが課題です。

4．マニフェストの実効性確保に向けて

マニフェストは市民への約束事です。それが実行され、実効性のあるものとなるためにはその後のフォローシステムが必要であり、これ自体をマニフェスト・市民への約束事の中に組み入れていかなければなりません。

検証と事後評価のシステムとして、以下の項目の導入を求めます。

(1) マニフェストのPDCAサイクルの構築

計画（P）、実行（D）し、常に結果をチェック（C）しながら改善（A）していくシステムの構築は、市民への約束を継続性と実効性のあるものとするために必要です。

(2) 市民参加による事後評価のしくみと体制の構築

評価には他者からの視点が必要です。システムの実行にあたっては市民の参加と、結果の公表を求めます。

5．マニフェスト・マトリクス

マニフェストは市民にとって身近なもの、分かりやすいもの、事後の検証に結びつくものでなければなりません。そこで別表に、「市民と行政の協働による共存のまちづくり」を縦軸に、「評価の観点と求められるしくみ」を横軸としたマトリクスを作成し、現在、市民の間で議論されている典型的な課題を当てはめてみました。

候補者の方々には、各自の市政運営の方向性を具体的な施策としてこのマトリクスに記入し、市民に分かりやすいものとして頂くようお願いします。

特に、マニフェストの具体的課題については、数値目標、達成期限や年次計画が明確化されていないと、事後評価や検証等が出来ないため、これらの具体的数値等の明記は必須だと考えております。

以 上

市民と行政の協働による共存のまちづくり(候補者記入用)

この表では、各項目を空欄にしております。
各候補者が問題、課題だと感じている項目を
例を参考に、記入して下さい。

マニフェストの項目	評価の観点・しくみ	開かれた市政 市民参加	具体的なテーマ	数値目標 達成期限と工程表	検証・進行管理 事後評価
市民と行政、市民相互の 協力によるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 行政 議会 NPO ワーカーズ・コレクティブ 				
川越の個性を 活かす・伸ばす・創る	<ul style="list-style-type: none"> 文化 歴史 まちづくり 観光 				
川越の人を 活かす・伸ばす・創る	<ul style="list-style-type: none"> 教育 市民活動 子ども 青少年 スポーツ 				
川越の資源を 活かす・伸ばす・創る	<ul style="list-style-type: none"> 産業 商業 労働 自然・環境(空気、水、緑、生態系) 				
川越の暮らしを 活かす・伸ばす・創る -福祉社会の確立-	<ul style="list-style-type: none"> 協働・共存 福祉 健康・医療 子ども(子育て環境<地域、家庭>、教育) 高齢者(医療、介護) 障がい者 				
川越のまちを 活かす・伸ばす・創る -まちづくり-	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心(防犯・防災) 安全な食糧供給 生活基盤(道路、上下水、鉄道、ごみ) 				

市民と行政の協働による共存のまちづくり(参考例)

この表は、市民が感じている問題、課題をあげた参考例です。
 なお、これらの項目には、市政に求めるだけでなく、市民自らの力と協働により、実現が可能となるものもあると考えています。

評価の観点・しくみ マニフェストの項目		開かれた市政 市民参加	市民から提案されたテーマ	数値目標 達成期限と工程表	検証・進行管理 事後評価
市民と行政、市民相互の 協力によるまちづくり	・行政 ・議会 ・NPO ・ワーカーズ・コレク ティブ	・政策決定の過程の明確化 ・情報公開 ・議会のテレビ中継 ・政策決定過程への住民の 実質的参加 ・自治基本条例の制定 (参加のシステム)	・全体計画(グランドデザイン)の明示とその中での位置づけの明確化 ・個別対応でなく、システムとしての対応 ・女性委員の参加 ・審議会等への公募委員の参加 ・住民参加のまちづくり ・NPO+NPO以外のサークルの参加。例:サッカーや少年野球チーム、 子育てサポート、交通安全、勉強会サークルなど。 ・ワーカーズ・コレクティブの設立	・評価可能な形でマニフェストの記載 ・実行可能性の裏付け ・審議会等への女性の任用比率 ・審議会等への公募委員の任用比率	・マニフェストのPDCAサイクル ・事後評価のしくみと体制 ・計画・事業の進行管理の徹底 ・事後評価と計画修正システム
川越の個性を 活かす・伸ばす・創る	・文化 ・歴史 ・まちづくり ・観光	・川越駅西口の開発計画 ・鏡山酒造の跡地利用	・川越駅西口の開発 ・市庁舎の立地、リニューアル計画の手続き ・歴史的建造物の活用計画 ・鏡山酒造の跡地利用 ・織物市場の活用方法 ・鶴川座、旧山崎家別邸、三善跡地の活用方法 ・緑豊かな周辺地区(芳野、山田、名細、大東、福原) ・快適な居住地、工業地区と農業・平地林地区との明確な線引き ・土地利用計画の策定 ・自然・歴史文化をいかす ・旧城下町地区以外の観光対象資源の発掘 ・遺跡、湧水、寺社、産業 ・グリーンツーリズム - いも掘りほか ・エコツーリズム - びん沼・伊佐沼	・川越への来街者数 ・織物市場の活用開始時期	
川越の人を 活かす・伸ばす・創る	・教育 ・市民活動 ・子ども ・青少年 ・スポーツ		・川越市の将来人口設計 ・教育施設の耐震化 ・学校給食の自校方式への転換 ・川越総合市場を活用した、川越食育運動 ・子どもの体力果内一運動の展開 ・各自治会に「子どもクラブ」を創設し異年齢交流と世代間交流を進める (例「みんなのおじ いちゃん・おばあちゃん運動」) ・学校空き教室の開放による青少年や地域活動の拠点化	・審議会等への公募委員の任用比率 ・審議会等への女性の任用比率 ・空き教室開放率 ・自校方式導入率	・事後評価と計画修正システム
川越の資源を 活かす・伸ばす・創る	・商業 ・農業 ・工業 ・労働 ・自然・環境(空気、 水、緑、生態系)	・まちづくり条例の制定 ・産業振興ビジョンの見直し ・環境基本計画の改訂	・まちづくり条例の制定(建築規制・開発規制) ・中心市街地活性化計画とまちづくり会社 ・ワーカーズ・コレクティブの設立 ・みどりの保全・拡大計画 ・新河岸川沿いの散歩路計画 ・人間川、荒川の河川・緑地計画 ・企業と地域生活の連携システム(文化・環境・福祉などの面で) ・市民農園・クラインガルテンの充実	・公園・緑地の比率	・環境アセスメント事項の事後評 価 ・公園・緑地計画の進捗状況
川越の暮らしを 活かす・伸ばす・創る - 福祉社会の確立 -	・協働・共存 ・福祉 ・健康・医療 ・子ども(子育て環境 <地域、家庭>、教育) ・高齢者(医療、介護) ・障がい者	・議会テレビ中継 ・高齢者、障がい者の当事者 参加 ・地域福祉計画の改訂	・個別対応の福祉でなくシステムとしての福祉 ・保育園の待機児を無くする ・幼保一体化により、家庭の状況と子どもの発達に即した保育と幼児教育 ・育児支援システムの構築(育児・健康相談体制、遊びの場、里おばあ ちゃんなど) ・家庭的雰囲気の子童保育施設と指導 ・高齢化への対応 ・高齢者の経験と能力の活用(川越版シニア協働クラブ) ・元気な高齢者づくりと病予防の推進 ・一人一役運動の推進。高齢者が地域で活躍できるネットワークの創設 ・介護保険事業の充実と施設整備の支援策実施 ・ユニバーサルデザインのまちづく	・ユニバーサルデザインの進捗率 ・保育園待機児率 ・高齢者の社会参加率 ・障がい者就業率	
川越のまちを 活かす・伸ばす・創る - まちづくり -	・安全・安心 (防犯・防災) ・安全な食糧供給 ・生活基盤 (道路、上下水、 鉄道、ごみ)	・市民懇話会設置 ・まちづくり条例の制定	・都市川越のグランドデザイン(コンパクトシティ化、都市の顔はどこか等) ・コンパクト都市 車中心から人間中心の都市への転換 ・歩いて楽しいまち、観光地をつくる。パーク・アンド・ライド。 ・多核構造都市の推進 中心地区(城下町地区)とサテライト地区 (霧ヶ間、古谷、高階)との連携 ・市街化調整区域の規制方針の検討 ・防災計画への市民参加 ・道路・交通問題への対応 ・川越駅から中央通り、一番街の交通計画 ・一番街の一方通行化とパーク・アンド・バスライドの導入 ・郊外部の環状道路計画 ・下水	・自主防災組織の数 ・主要道路の断面交通量 ・交通事故分布 ・学校および公共建物の耐震補修率 ・市役所移転問題と市庁舎リニューアル 方式の決定手続	・市街化の進捗の事後評価 ・交通計画の事後評価